



川辺同窓会報

創立百二十周年に向けて



同窓会会長
森 田 剛

会長に就任して一年が過ぎました。その間、「東京同窓会」をはじめとして、「関西同窓会」「福岡同窓会」「宮崎同窓会」「鹿児島同窓会」「南さつま地区神戈陵会」また職域同窓会として「南九州市職員等神戈陵会」、そして「川辺本部同窓会」と八つの同窓会に参加させていただきました。どの会場とも年々参加してくださる方の減少に悩みな

がらも、会員相互の親睦を図り、母校を懐かしみながら盛大に催されている様子に感銘を受けました。

さて、明治三十三年の春「鹿児島第四中学校」として創立された我が母校は、「明治」「大正」「昭和」「平成」と歴史を重ね二万余の卒業生を輩出した県下の名門校であります。年号も「令和」と改まり、東京オリンピックが開催される年に川辺高校は創立百二十周年を迎えます。同窓会としては「創立百二十周年実行委員会」を設置し、この記念すべき節目の年に学校とも相談の上、令和二年一月二一日に記念式典を挙

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897-0221
南九州市川辺町田部田 4150
TEL0993-56-1151
FAX0993-56-1152
県立川辺高等学校

することといたしました。多くの同窓生にご賛同いただき、盛大に実施したいものです。

ところで創立百周年の折には、皆様のご協力をいただき、記念事業としてセミナリーハウス「神戈陵尚学舎」を建設し、創立百十周年の折には、空調設備の整備を行い、二十一世紀を担う有為な人材の育成に貢献しております。

さて、西暦二〇二〇年に創立一二〇周年を迎えるにあたり、輝かしい歴史と伝統に新たな頁を加えるために、今回は生徒たちのより良い学習環境を整えることを主たる事業といたしまして、次の三点を計画いたしました。

一 クラス全員が同時にタブレット端末を使用した授業が出来る環境を整えること。

二 創立八十周年記念事業からスタートした育英奨

学事業を継続し、意欲ある生徒に対し奨学金を授与し激励すること。

三 部活動、芸術活動、通学環境、などの学習環境を支援すること。

母校の揺るぎない歴史の足跡を忍びながら、夢多き後輩たちの目指す進路を必ず実現させ、さらなる川辺高校の発展をはかるために、同窓生一同力を合わせて「創立百二十周年」の記念式典を成功させましょう。皆様のご協力をどうかよろしくお願いいたします。



伝統の継承と時代の変化 〜令和の始まりとともに〜



人 尚 山 長 校 大

平年並みに始まった梅雨が七月の中旬を過ぎてても明けません。七月の初めは皆さんの母校のある川辺町にも、警戒レベル4の避難指示が出るほどの大雨が降りました。南さつま市の大王川が決壊し、万之瀬川は氾濫危険水位に達しました。金峰町では、側溝から水が溢れ出て道路が冠水するところもありました。知覧の手蓑峠付近では土砂崩れがあり、通行止めが続いています。母校川辺高校は、山からも川からも少し離れて

いることもあり、災害の危険性は微塵も感じられませんでした。神戈陵がしっかりと見守ってくれました。ただ被害に遭われた方々の心中を察しますと、言葉も見つからず、心からお見舞い申し上げるばかりです。梅雨が明けると猛暑日が続くとの予報が出ています。皆さん、熱中症対策などとしていただき、体調管理には十分気をつけてください。

それでは、まず最初に今年三月に卒業した八七名の進路状況について述べます。

◎国立大学 二一名合格

鹿児島大学、山口大学、佐賀大学、熊本大学、宮崎大学、琉球大学、新見公立

大学、県立広島大学、公立鳥取環境大学、山口県立大学、山口東京理科大学、下関市立大学、長崎県立大学名桜大学

◎私立大学 四五名合格

鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、第一工业大学、国際武道大学、順天堂大学、東海大学、近畿大学、環太平洋大学、福岡大学、日本経済大学、西南女学院大学、九州国際大学、九州産業大学、崇城大学

◎国立短大 六名合格

鹿児島県立短大、大分県立芸術文化短大

◎私立短大 七名合格

鹿児島純心女子短大、鹿児島女子短大、第一幼児教育短大、武庫川女子大学短大部

◎文科省所管外大学校等

五名合格
鹿児島県立農業大学校

川内職業能力短期大学校

◎専門学校 二九名合格

◆医療系・看護系

(理学療法、作業療法、歯科衛生士、看護、臨床工学)

二〇名合格

◆その他 九名合格

(TV映像音響、製菓技術、税理士、視聴覚デザイン等)

◎公務員二名採用

指宿南九州消防組合

◎就職二名採用

(株) 日本郵便九州支社
(株) 京セラ国分工場

ここに示した成果は、教師の指導に素直に従い、最後まで粘り強く取り組んだ努力の賜物だと思います。ただ、同窓会の皆さんから見れば物足りない結果かもしれないませんが、結果を真摯に受け止めて工夫と改善をしながら、職員一丸となつて生徒の個性に応じた細や

かな指導を徹底させたいと思います。今年度も生徒たちが、「伸び率No.1」を胸により高い進路実現を成し遂げてくれることを願っています。

ここで、学校の現状を述べさせてもらいますと、現在の生徒数は一年生七三名(二クラス) 二年生六二名(二クラス) 三年生九五名(三クラス) 合計二三〇名(七クラス) となっています。南薩地区も少子化が進み、三市(枕崎市・南さつま市・南九州市)の中学三年生が、昨年度は約七五〇名、本年度は約七三〇名、来年度は約六八〇名と減ってきています。どうやって入学者を増やしていくかが今年の一歩の課題になります。また、政府の教育再生実行会議が五月の提言で例示した、高校普通科改革の四つのパターン、すなわち

①進学や就職などキャリアを自身で形成する力の育成

②グローバルに活躍するリーダー、国内外の課題を解決できるリーダーの素養の育成

③科学技術分野のイノベーターとしての素養の育成

④地域課題の解決を通じ、体験と実践を伴った探究的学び

の検討も含めて、旧制四中の流れを汲み、来年百二十周年を迎える伝統ある川辺高校をどのように存続していくか、校長としての重責を身が引き締まる思いですが、何とか担っていかうと考えています。

部活動ですが、なぎなな部が昨年の全国高校総体で、団体で県勢十年ぶりに決勝トーナメントに進み五位入賞と健闘しました。三

月の全国選抜大会での活躍を期待していたのですが、団体・個人ともに惜敗しました。六月の高校総体県予選においては、団体・個人の試合と演技競技において、出場枠を独占する強さを見せてくれました。九州大会は、団体は予選リーグで、優勝した沖縄の首里高校に破れ、準優勝した大分の福徳学院に代表戦で惜しくも敗れ、決勝トーナメントに進むことができませんでした。しかし、個人試合は二位、演技競技は三位と頑張ってくれました。全国高校総体での活躍が楽しみです。バスケットボール部の男子は、南薩地区大会ではありますが、秋・春と連覇しました。残念なことに野球部は、今年の夏の大会は垂水高校と山川高校との合同チームでの参加となつてしまいました。その他の

体育系の部や音楽部やES部などの文化系の部もよく頑張つて、文武両道を実践しています。

今年の創立記念講演会は、酒瀬川純行氏（第二二回昭和四五年卒）を講師にお招きし、「私と英語と英国と」その始まり、様々な出会いと学んだもの」と言う演題で講演していただきました。生徒たちは、三五年も前に英国留学をされていたことに驚き、偉大な先輩方がいることを改めて実感していました。

また、昨年の神戈陵塾は、門園富美子氏、山口慎吾氏、坂上勇樹氏の三名を講師にお招きし行われました。これをきっかけに、山口氏がお勤めの（株）トライ社に川辺高校のPR動画を作成していたいただきました。プロデューズやナレーションや撮影などすべてを川辺高校

の同窓生が担当して作成されています。いろいろな学校行事や中学校の高校説明会、同窓会の会合等で見てもらっています。五分と三〇秒の二つのPR動画があります。三〇秒の方は川辺高校公式ブログで見ることがができますのでご覧ください。

現在、学校では生徒会執行部を始めとして、部活動も新体制となっています。今年度も、四月九日に七三名の新入生を迎えて、第七四回入学式を挙行しました。五月令和に元号が変わり、平穏な日々が流れて現在に至っています。急速に変化している環境のもと、生徒たちは神戈陵の見守る中で、伝統と誇りを胸に頑張っています。

最後になりますが、地域により期待される学校となるよう、生徒・職員が心を

一つにして教育活動を展開してまいります。これまで同様、深い御理解と御支援をお願いいたします。川辺高校のさらなる飛躍と、本部同窓会のますますの御発展を祈念申し上げます。



川 辺 同 窓 会

代表幹事
山崎 智秀
(平成八年卒)

平成三十年度川辺高校同窓会総会が、平成三十年八月十一日に「宴会おかの」で盛大に開催されました。今回は男性が平成八年の卒業生、女性は平成十七年の卒業生が担当幹事となり準備等を行ってきました。当日は、南九州市内外から七十名余りの参加者をお迎えすると共に、学校関係者の御出席もいただき盛大な同窓会を開催することができました。

総会は、森田剛同窓会会長、大山尚人校長の挨拶で始まり、平成二十九年度の会務報告や会計収支決算及び監査報告、平成三十年度事業計画案・収支予算案等が審議され、全て承認され総会を閉じました。その後懇親会へと移り、

代表幹事挨拶のあと、「神殿ほたる太鼓」による演奏が行われ、オープニングを大いに盛り上げてくださいました。

続いて、乾杯の音頭を東眞宏同窓会副会長が行い、久しぶりに再会した同級生や先輩方との思い出話に花を咲かせていました。前田利久教頭から映像で平成三十年度文化祭の様子が紹介され、はつらつとした在校生の姿を見て、昔の自分と重ねる方もいらつしました。

歓談の締めは、恒例となっている参加者全員での旧制川辺中学校校歌、川辺高等学校校歌の斉唱をし、川辺高校の今後の更なる発展を祈念して、再来年の幹事を務める上野博文さんの

御発声により参加者全員で万歳三唱をし、創立一二〇周年に向けた皆の協力を誓い、同窓会が閉じられました。今回の同窓会開催にあたり、幹事として準備が行き届かないところも多々あったかとは思いますが、同窓会会長をはじめ役員の方々、同窓会事務局の先生

福岡同窓会

本田 正月
(昭和四九年卒)

方や関係各位の皆様のお協力により盛会に終わりましたことに深く感謝申し上げます。また、最後になりますが、川辺高校及び同窓生の皆様の更なる発展を御祈念いたしまして、報告とさせていただきます。

平成三十年十月二十日(土)、清々しい秋晴れの午後、天神スカイホール「ウエストルーム」にて第三十回川辺高校福岡同窓会が開催されました。

来賓として本部同窓会から森田剛会長、本校から大山尚人校長と、同窓会担当の内菌和浩教諭の三氏をお迎えし、福岡同窓会からは昭和三十一年から平成十七年までの卒業生二十三名の

参加で、総勢二十六名での開催となりました。

本年度も本田正郎先輩(昭和三二年卒業)の滑脱な名司会により、上野修一福岡同窓会副会長(昭和四三年卒業)の開会のことばで始まりました。

亡師亡友への黙祷のあと、川元満郎先輩(昭和四一年卒業)から、故大坪憲市同窓会会長を偲び、詩吟が捧げられました。佐多

竹良福岡同窓会会長(昭和四三年卒業)の挨拶のことはでは、ノーベル医学賞受賞者の「先はわからないが、しなければ何も変わらない」という言葉が紹介され、また少年期の各集落にあった郷土教育に因む行事(十五夜の綱引きなど)の教育的意義が話されました。

森田剛本部長からは、本校の生徒数減に対する同窓会のあり方として、寄付金だけでなく、在校生に直接関わる行事を設ける等の支援が必要である旨の話がありました。二〇二〇年に創立一二〇周年を迎える川辺高校の他にない良さ、卒業生の活躍等を直接中学生・高校生に伝えること、またその実現のためにも各支部の同窓会において、若い同窓生の「同窓会」を開くなどの盛り上げで活性化が必要であるとの提言を頂



きました。

大山校長からは、校長としての初任地となった川辺と、平山出身であるご自身との奇縁、東京同窓会同窓生と在校生との交流、全国大会五位のなぎなた部の活躍、人数不足で苦しむ各部活動の現況、また入学時の学力が懸念されながらも、卒業時の国公立大学への進学者数は健闘していること等のお話がありました。地域の祭りでは川辺高生なしでは成り立たないものもあり、地域での川辺高生の存在は大きいことから、孫たちには「川辺高校へ行け」と勧めてほしいとのことでした。

内菌教諭からは、ご自身の担当する野球部の今夏の活躍（鹿児島工業に1対0で勝利）にもかかわらず、来年度の部員不足という悩みも訴えられました。

来賓のお話のあと、旧校

歌、新校歌斉唱と続き、上木原純一郎先輩（昭和四三年卒業）に乾杯の音頭をとっていただき、歓談に入りました。永見彌瑩先輩（昭和三四年卒業）からは、十月のシカゴマラソン

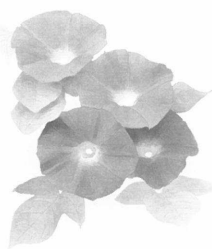
で日本新記録を出した大迫傑選手と勝目との縁が話され、東京オリンピックに向けて益々応援して下さいとの話がありました。また堀内勉先輩（昭和四二年卒業）からは、福岡同窓会事務局長である南谷洋至君（昭和四九年卒業）が弁護を担当した裁判事件の問題を扱った本「でっちあげ」（新潮文庫）の紹介・・・等々、出席者各々による「あいやらこいやら」の近況報告、情報提供が続きました。

全員が顔を並べての写真撮影のあと、南谷事務局長の音頭で万歳三唱。三唱とは「過去への感謝」「現在での分かち合い」「未来へ

の祈り」。福岡市随一の繁華街・天神のビル十六階から、一階の道行く人々も立ち停まる程の朗々高らかな発声をもって、福岡同窓会は終了しました。

三十回の節目となった今回の同窓会を盛会のうちに終えることができたのも、遠路お越し頂いた本部同窓会及び本校の皆様、福岡同窓会の皆様のご尽力、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

川辺高校の益々の発展を祈念して、報告とさせていただきます。



鹿児島同窓会

事務局長
寺 師 慶 志
(昭和四一年卒)

大坪会長を偲ぶ会 同期生、多数参加

鹿児島同窓会の平成三十三年度「神戈陵のつどい」(総会・懇親会)は十月二十七日(土)、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開き、四十五人が参加しました。

総会に先立ち、本部同窓会長だった故・大坪憲市さんを偲ぶ会を執り行いました。大坪さんの同期生四十一年卒の仲間が計画しました。

お経を務めた同期生の早川教栄さんは、真宗興正寺鹿児島別院の輪番。「追悼の供養をご縁とし、いつの日か再び極楽浄土でお会いすることができそうですよう謹んで申し上げます」。

大藺早夫さんが追悼の辞。「生前、本人いわく、人

さんのために尽くせ」を人生訓にしておりました。いろんな肩書が四十四個もあったようです。憲坊ゆつくり休んでください」

総会では、鹿児島同窓会の前会長・椎原耕さんの後任に加治佐悦さん(三十五年卒)を満場一致で承認。加治佐さんは「この六年間、母校の体育祭に行っています。そこでは自分の青春を確実にすることができ

ます」本部同窓会の新会長、森田剛さん(四十三年卒)が祝辞。「二年後に創立一二〇周年。大坪前会長のご遺志を引き継いで一所懸命に取り組めます。物心両面での協力いただきましたい」

大山尚人校長は「川辺

町平山生まれ。両親、叔父、叔母とも川辺高校卒」と自己紹介のあと、「ことし百二十人募集に対して六十三人入学。地方の生徒はどんどん減っている」と現況を説明しました。

収支決算・監査報告(監事・田中俊朗さん)は原案通り承認されました。

引き続き懇親会。有蘭純一さんが乾杯のご発声。歓談の中、通山雅孝事務長、同窓会担当の堀脇啓子教

関西同窓会

事務局
太 藺 早 夫
(昭和四一年卒)

平成三十年度川辺高校関西同窓会は秋晴れの好天氣に恵まれた十一月十七日(日)に、新大阪駅近くのワシントンホテルプラザにて開催されました。何回目の同窓会なのか回数

論、高山裕司教諭の熱意あふれるスピーチをいただきました。柳誠子さんが閉会の辞。中藺幸男さんが万歳の三唱を務めました。

鹿児島同窓会は従来、七月末に開催してきましたが、豪雨、台風、猛暑...という自然災害が近年相次いでいるため、気候が安定する秋に変えてみました。時期は「正解」でしたが、出席者数、年会費の協力者数など大きな課題が残りました。

や池田寛さんたちが音頭を取り開催されて半世紀近く経っています。高校も歴史を積み重ね、来年二〇二〇年には創立一二〇周年を迎えますが、同窓会も歴史を感じさせています。

例年三十名程度の同窓会ですが、今年の関西同窓会

は、昭和三十八年度卒の皆さんが同窓会を関西の地で開いて下さり、四テールが五テールになりました。関西在住の河津さん、迫さん、藺田さん、岩屋さん、上堂藺さんが全国に呼び掛けて、関東・中国・九州から十四名に参加いただきました。いっになく活気ある元気な同窓会になりました。体調不良で二名の欠席者がありましたが総勢三十九名で開催致しました。来賓として、母校川辺高校の大山尚人校長先生、同窓会係りの渡辺裕介先生、森田剛本部同窓会会長をお迎えしました。

まず、開会に先立ち今年五月急逝された大坪憲市前同窓会長及び亡師亡友に哀悼の意を表しました。特に大坪前会長はここ大阪の工大を卒業し、関西への思い入れも強く、出席を楽しみにしていただいただけに残



念でした。

第一部の総会では、岩屋口大造会長から三名のご来賓に対し、ご多忙の中ご臨席いただいたお礼と、高齢化している同窓会を、今後若手の参加を呼びかけて活性化に努めたいと抱負を述べられました。また、一昨年より始めた年会費について、多くの方の賛同を得て今年も二十名の方々から納入いただいたことへのお礼も添えられました。森田剛新会長は前会長の急逝に触れ、同窓会の柱を失って困惑しているが、後任として同窓会活性化・少子化に伴い生徒募集に苦勞している状況下での母校存続のご協力については、来年二〇二〇年に創立一二〇周年を迎えるにあたり、是非皆様のお力添えをお願いする挨拶がありました。

来賓、ご挨拶で大山校長先生から、ご自身が川辺町出

身で幼少の頃よく遊んだ当時の街並みを話され、参加者にも郷愁が沸きました。今年度新任校長として伝統ある名門川辺高校での勤務には、驚きと責任の重さを実感しているとのことのお話がありました。同窓会係の渡辺先生からは詳しい「学校概要説明資料」を用意いただき、現在の川辺高校の現状について（進学状況・部活動・ボランティア活動等の頑張っている諸活動）報告がありました。また、同窓会館校史資料室の充実にも触れ、単に資料としてため込んでいるのではなく閲覧しやすい状況を作り出しているとの、帰郷の折には是非立ち寄ってくださいとのことのお話をいただきました。

会計報告では、昨年度から年会費を納入いただいた分を収入の部に組み込み、少し余裕ある会計になったと恒光順子さんの報告があ

り、山ノ内樹さんの監査報告も滞りなく終了しました。年二回ほどの親睦ゴルフの活動をしていることと同窓会の次回開催を十一月四日に行うことを報告し第二部の懇親会に移りました。

二十二年卒大先輩の諏訪幸一さんから、謹厳で重厚な口調で、南薩の誇りある我が母校に栄えあらんことを祈念した乾杯のご発声で開演となりました。懇談中、この関西で活躍している方々の講話をいただいて四年目になりますが、今年は高校創立記念日に講演してくれた四十一年卒の、東享さんに「認知症防止とアロマ」と題しミニ講演をいただきました。ご自身が商品開発し販売しているサンプルを持参いただき、用意したものがあったという間に無くなる程好評でした。なお、神戈陵塾の講師でカラーコーディネーターの門

園富美子さんに「この色であなたはもつと輝く」と題した講演をいただく予定でしたが、当日総会の途中にご本人からインフルエンザでやむを得ず欠席との連絡がありました。来年度の講演に期したいと思います。

本部からご恵送いただいた地元の焼酎「寿」「八幡」を飲みながら、例年同様参加者からの一言をお願いする場になりました。病氣・年金・薬・趣味の話はもちろん、昔の高校時代の追憶やなんとダービーで二八五万円馬券を的中した日本一幸運に恵まれた方の話も飛び出しました。皆さん思いのたけを話し、日頃

の鬱憤・憂さを晴らす良い機会となり拍手喝采でした。今回の盛り上がりは、何と言っても全国に声をかけて、大阪で同窓会に参加いただいた三八年卒の方々の力によるものです。翌日は秋の京都見物を楽しまれたようです。

記念撮影の後、校歌を斉唱し再会を誓って散会しましたが、まだまだ話足りないと同ホテル一階のラウンジで、またまた大宴会となりました。別れづらい一日となりました。また皆さんと来年の十一月四日（月曜振替休日）に再会出来ます様、母校と同窓会の発展を祈念し報告とします。

宮崎同窓会

松山輝雄
(昭和三十四年卒)

平成三十年度の川辺高校同窓会宮崎県支部、総会・懇親会は、平成三十一年一

月二十七日（日）、宮崎市のホテルスカイタワーで開催されました。始めに、昨

年、急逝された大坪憲市前会長とこれまでに亡くなられた同窓生の方々のご冥福をお祈りして、黙祷をささげました。ご来賓として、故郷川辺から本部同窓会の森田剛会長、学校から大山

尚人校長先生と渡辺裕介先生にご出席いただきました。

泊副会長の開会挨拶の後、芝原文会長の歓迎の挨拶があり、ご来賓お三方のご挨拶をいただきました。



た。母校の現況（入学生数の減少）や後輩の活躍ぶり（野球部の惜敗、なぎなた部の活躍）、先生方の奮闘ぶりについての力強いお話を伺い、「どげんかせんといかん!」「なんかできることはなかか?」という気持ちになりました。

懇親会では、写真撮影をはさみ、それぞれの参加者の皆さんのユーモアあふれる楽しい近況紹介、「蟹ヶ地獄」「池田パン」などの言葉が出てくる思い出話に、評判の和食お膳にふるさとの香りと味の焼酎をいただきながら、「私たちの今」の礎である母校の逞しさに触れるとともに、恩返しの気持ちを感じました。故郷を懐かしむともに、年に一度の出会いを楽しむ、暖かい会となり、一同、心から喜びと感謝を感じております。

盛り上がる懇談のなか、

最後は田代和民氏（八十八歳）の指導による、新・旧校歌の大合唱で名残りを惜しみながらの散会となりました。

「同窓会 笑顔に残る 青い空」ありがとうございました。

東京同窓会

森山 昭利
(昭和四一年卒)

前日に関東地方に梅雨入り

宣言が出されたばかりとあつて、会員の出足が心配されましたが、幸い薄曇りの天気となった令和元年六月八日（土）、新宿ワシントンホテルで第四十三回川辺高等学校東京同窓会総会・懇親会が開催されました。

本総会には、森田剛本部長、同窓会会長、前田裕一教頭先生、高山裕司先生が、ご来賓として参加されました。前日には、これら三名のご来賓を交えて、東京同窓会の小原会長をはじめとする役員有志との交流会が催され、母校の現状や課題などについて熱の入った意

見交換を行いました。

参加者数は最終的に、昨年を若干下回りましたが、ご来賓を含めて百六十名を上回る盛会となりました。

総会に先立って、午前

十一時から東京同窓会の会員で、株式会社 醸造産業

新聞社相談役の矢島寿史氏

（四十五年卒）による、「世

界の酒と焼酎」と題した特

別講演が開催されました。

演題が鹿児島島の焼酎に関

するものだけに、開始直後

にはほぼ満席となり、講師

の軽妙な語り口もあつて、

皆さんが熱心に聞き入って

いました。講演後には参加

者からかなり専門的な質問も

出され、講師からは丁寧な説明がありました。

その後、別室で小原会長を議長として総会が開催されました。

恒例の物故者への黙祷に続き、小原会長の挨拶がありました。続く会務報告では、昨年十二月六日に母校からの修学旅行生を迎えて、東京同窓会の役員六名が講師として「神戈陵塾in東京」と題して、様々な話題を取り上げての懇話会を開いたことが紹介されました。

議長が、この会務報告に続く会計報告、会計監査報告の三議案をまとめて、出席者に諮ったところ、満場一致の賛成によって承認されました。なお、会計監査の説明に合わせて、会計監事から決算事務の効率化のため、東京同窓会の会計年度を、会則第十四条の2に定める「毎年四月一日から翌年三月三十一日まで」



から、「毎年一月一日から十二月三十一日まで」に変更する件につき、来年の総会の議案とするよう提案がありました。

第四号議案として、近年開催場所の確保が困難になりつつあることなどを主な理由として、東京同窓会会則の第十六条に定める開催時期「年一回六月」を「年一回四月から六月の間」に変更する件が上程され、議場に諮られた結果、満場一致の賛成によって承認されました。

第五号議案として、小原会長の退任と顧問への就任、森山副会長の会長就任を中心に副会長、幹事長、副幹事長、会計幹事長を含む新体制の役員改選案が提出され、議場に諮られた結果、出席者全員から異議なく承認されました。

その後、森山新会長から就任挨拶と会員へのご支

援・協力のお願いがあり、続いて新体制の各役員の紹介が行われました。

続く懇親会は、年度幹事である畠中耕一さん（五十年卒）と下之園ルリ子さん（五十一年卒）の司会で始まり、ご来賓十一名の方々が紹介されました。

まず、森田剛本部同窓会長が、来年の母校創立一二〇周年事業に関して、鹿児島県の高校で初めてといえる、生徒全員にタブレット端末を貸与する企画を説明し、母校同窓会の支援を強く訴えられました。

続いて、前田教頭先生がビデオ動画を使って、卒業生グループが作成した川辺高校のCM画像や生徒たちの海外研修などの活躍ぶりを紹介されました。

タブレット端末やビデオ画像の活用など、時代が大きく変わりつつあることを強く感じました。

その後、今総会の担当年度幹事の紹介があり、昭和三十年卒の井料和彦先輩の音頭で、待ちかねていた乾杯を行い、年次別に分かれたテーブルでの懇談に移りました。

刺身こんにやく、つけ揚げ、ホテルの料理にイモ焼酎も加わり、どのテーブルも一挙に盛り上がりました。

宴もたけなわにさしかかり、有志の女性陣が、テーブルの間を縫って「炭坑節」や「おはら節」を踊り始めました。踊りの終わりがこ

に、井料先輩が飛び入りで「大根畑でげんねこつしやんな・・・・」と、おはら節の替え歌を歌い始めると、会場全体が拍手と笑いに包まれ、大いに盛り上がりました。

最後に、堂園俊秋先輩（三十八年卒）の指揮で新旧校歌を全員で斉唱、大坪剛先輩（三十二年卒）の音頭で万歳三唱のあと、峯苦副会長による閉会のあいさつをもって第四十三回東京同窓会総会・懇親会は終了しました。

南九州市職員神戈陵会

書記会計
作 木 浩 幸
(昭和五九年卒)

南九州市職員等神戈陵会は、南九州市役所職員及び指宿南九州消防組合員で構成しており、令和元年五月一日現在で八十五名（職員総数三九五名）が加入して

います。母校に身近な組織であるという考えに基づき、第三十九回目の総会を六月十二日（水）に宴会おかので開催しました。

宇都寿彦会長の挨拶の

後、平成三十年度事業経過報告、収支決算が報告され、また令和元年度の事業計画、収支予算等の議案についての提案を行い、無事に承認されました。令和二年十一月に予定されている「創立一二〇周年記念事業」においても出席会員の共通認識として共有が図られ、本部同窓会との連携を密にしていくことも確認されました。

総会後の懇親会には、川辺高校同窓会から森田剛会長、川辺高校より大山尚人校長・前田裕一教頭・内蘭和浩教諭に参加していただき、現在の高校の現状や来年の一二〇周年記念事業についての報告をしていただきました。高校で作成された「川辺高校PRビデオ」を拝聴すると、生き生きとした生徒の様子や熱心に指導している先生方の様子がスクリーンを通じて伝

わってくるものがあり、それぞれ自分の青春時代と重ねてながら、懐かしさや期待を含めて拝見しているようにでした。今後も川辺高校のPRに大いに活用していただきたいと感じたところです。また、今春入庁した職員一名（古市享大さん）、消防組合から再加入した職

員一名（東秋孝さん）の自己紹介なども行われ、懇親会を盛り上げていただきました。今後においても、会員間の交流と親睦を図りながら、母校の同窓会活動を支える団体として活動を続けていきたいと感じたところです。

南さつま地区神戈陵会

中馬 悟
（昭和五十二年卒）

令和元年度川辺高等学校南さつま地区神戈陵会は、七月十三日（土）午後五時より例年通り、南さつま市加世田地区の中心部でレストランを経営する今村勝則氏（昭和三十九年卒）のレストランブルドッグで開催されました。

本部同窓会副会長高田政雄氏（昭和四十八年卒）にご出席いただき、ご挨拶と活動状況のご説明をいた

だきました。さらに、来年十一月二十一日に行われる創立一二〇周年記念式典に関係した熱い話もありました。

学校側より、前田裕一教頭先生、松村賢志事務長（昭和六十二年卒）、渡辺裕介先生（同窓会係）と岡野和典PTA会長（昭和六十一年卒）も出席していただきました。記念事業の一つであります、県立高校で初め

てのタブレットの導入、学校案内、学校行事、学校内外の活動を拝見いたしました。

西浩二幹事長（昭和四十八年卒）の進行で、総会議事に入り、上東書三会長の体調不良に伴い、副会長でありました上野寿郎氏（昭和五十年卒）が後任として会長に選出されました。会見報告などがあつた後、全体総会を終了して懇親会に移りました。二十三名の出席者どうし、お酒を酌み交わしながら、とても楽しい時間を過ごしていただきました。学生時代の懐かしい思い出話を語ったりして、母校に対する愛校心を更に強くした、とても和やかな雰囲気でした。レストランブルドッグの大広間を貸し切りおいしい料理を残すことなく食べて飲んで、次の開催を約束し閉会いたしました。



事務局だより

【平成三十年度神戈陵教育振興会奨学生決定の報告】

平成三十年度「神戈陵教育振興会奨学生」として、二年生の芝原史歩さん（川辺中卒）、寶代千夏さん（知覧中卒）、岡野真子さん（川辺中卒）、一年生の菊永莉子さん（知覧中卒）、大畠杏摩君（立神中卒）に決定し、認定書及び奨学金が交付されました。



【平成三十一年度のスタート】

四月九日（火）、第七十四回入学式が本校体育館で挙

行され、新入生七三名を迎え、全校生徒二二〇名（男子九十二名 女子一三八名）で平成三十一年度がスタートしました。また、当日、校長室で優秀な成績で入学した神蘭楓大君（川辺中卒）に、神戈陵教育振興会から認定書及び奨学金が交付されました。



【創立記念講演会】

四月二十七日（土）、創立記念講演会が開かれました。今回は、志學館大学人間関係学部教授の酒瀬川純

行氏（昭和四十五年卒）をお招きし、「私と英語と英国と」その始まり、様々な出会いと学んだもの」という演題でご講演いただきました。

講演では、英語の音と文字に魅了された中学時代、短編の翻訳をした高校時代、英語の詩や短編小説の研究に取り組んだ大学時代、文法だけにとらわれない授業を実践した高校教員時代の取得につながる英語力を身につけるまでに至った英国留学時代、その後帰国し、県庁国際交流課で外国人の接遇・通訳等を経験したこと、現在大学では、担当している時事・通訳英語、英国研究等以外に、英語の総合力・TOEIC対策を目的とした「英語道場」を開いている、といったお話をしてくださいました。最後に生徒に対して、「英語は世界を拓く言葉の

扉。人生は旅。この世は舞台。夢を持ち、英語を駆使して個性豊かにパフォームし、人生を大いにエンジョイしよう！」と熱いエールを送っていただきました。



【令和元年度神戈陵教育振興会奨学生決定】

七月九日（火）、三年生を対象にした神戈陵奨学生の選考委員会が開かれ、上園美空さん（桜山中卒）、野間優李さん（川辺中卒）、寶代千夏さん（知覧中卒）、岡野真子さん（川辺中卒）の四名に決定し、七月十九日（金）、校長室で交付式を行いました。

【お知らせ】

○令和元年度

中学生川辺高校体験入学

七月二十六日（金）

七二名 保護者二一名

八月二十六日（月）

四六名

保護者 二〇名（予定）

多くの方の受験をお待ちしています。

○各地区同窓会の今後の予定（決定している地区のみ）

東京同窓会

令和二年五月二三日（土）

※場所は支部にお問い合わせ下さい。



収入の部

平成30年度 川辺高等学校同窓会会計決算書

(単位：円)

費 目	予算額①	決算額②	対比 ②－①	備 考
入 会 金	120,000	73,000	△ 47,000	1,000 円× 73 名（新入生）
会 費	180,000	174,000	△ 6,000	2,000 円× 87 名（卒業生）
総 会 費	250,000	232,500	△ 17,500	同窓会総会参加会費
繰 入 金	1,500,000	1,520,439	20,439	特別積立基金より繰入
繰 越 金	1,517,448	1,517,448	0	前年度繰越金
雑 収 入	552	10	△ 542	利息
合 計	3,568,000	3,517,397	△ 50,603	

支出の部

(単位：円)

費 目	予算額①	決算額②	対比 ②－①	備 考
総 会 費	400,000	234,119	△ 165,881	総会費
会 議 費	30,000	8,494	△ 21,506	会議費
需 用 費	130,000	125,080	△ 4,920	会報印刷代、事務消耗品等
通 信 費	15,000	12,896	△ 2,104	はがき代
慶 弔 費	100,000	72,000	△ 28,000	教職員転出者記念品代
旅 費	330,000	270,936	△ 59,064	東京、関西、福岡、宮崎同窓会等への旅費
負 担 金	230,000	199,000	△ 31,000	各地区同窓会等への負担金
高校振興費	900,000	769,444	△ 130,556	活性化対策事業補助 500,000 円 文化祭補助 50,000 円 その他高校の振興に関する費用
雑 費	60,000	39,400	△ 20,600	各地区同窓会への土産代等
120 周年特別 会計へ繰出金	1,000,000	1,000,000	0	120 周年記念事業特別会計へ繰り出し
予 備 費	373,000	0	△ 373,000	
合 計	3,568,000	2,731,369	△ 836,631	

収 入 3,517,397 円 支 出 2,731,369 円 繰越金 786,028 円（翌年度へ繰越）

特別積立基金残高

特別積立基金 川辺高校同窓会（鹿児島銀行：定期預金） 1,000,509 円
 特別積立基金 110 周年川辺高校活性化基金管理会（ゆうちょ銀行：定期預金） 4,540,878 円

収入の部

令和元年度 川辺高等学校同窓会会計予算書（案）

(単位：円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較	備 考
入 会 金	120,000	120,000	0	1,000 円× 120 名（新入生）
会 費	190,000	180,000	10,000	2,000 円× 95 名（卒業生）
総 会 費	250,000	250,000	0	同窓会総会参加会費
繰 入 金	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	特別積立基金より繰入
繰 越 金	786,028	1,517,448	△ 731,420	前年度繰越金
雑 収 入	972	552	420	利息等
合 計	2,347,000	3,568,000	△ 1,221,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較	備 考
総 会 費	250,000	400,000	△ 150,000	総会費
会 議 費	30,000	30,000	0	会議費
需 用 費	130,000	130,000	0	会報印刷代、事務消耗品等
通 信 費	15,000	15,000	0	切手・はがき代等
慶 弔 費	100,000	100,000	0	教職員転出者記念品代等
旅 費	330,000	330,000	0	東京、関西、福岡、宮崎同窓会等への旅費
負 担 金	230,000	230,000	0	各地区同窓会等への負担金
高校振興費	800,000	900,000	△ 100,000	活性化対策事業補助 500,000 円 文化祭補助 50,000 円 その他高校の振興に関する費用
雑 費	50,000	60,000	△ 10,000	各地区同窓会等への土産代等
120 周年特別 会計へ繰出金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
予 備 費	412,000	373,000	39,000	
合 計	2,347,000	3,568,000	△ 1,221,000	

各 地 区 同 窓 会 連 絡 先

事務局 川辺高等学校

TEL0993-56-1151

〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田4150 FAX0993-56-1152

川 同 窓 会	会長 長森田剛 副会長 東村書宏 副会長 中田祐三 副会長 蘭川政嗣 副会長 松久保子 副会長 高田毅 副会長 新原正 副会長 鮫田政 副会長 東島雄 副会長 久松成規 副会長 木田功 副会長 宇都充 副会長 上園一 副会長 上妻ゆき 副会長 上野彦 副会長 大倉野三 副会長 梅橋省 副会長 宮原楊 副会長 野中行 副会長 土野光 副会長 前政 副会長 内和 副会長 森山昭 副会長 菊永稔 副会長 内村哲 副会長 中寛
東 同 窓 会	会長 飯野布志夫 副会長 二反田統男 副会長 日置宏 副会長 神野幹彦 副会長 岩屋口大造 副会長 梅津弘芳 副会長 河津由美子 副会長 大早夫
東 同 窓 会	会長 佐多竹良 副会長 堀内勉 副会長 上野修 副会長 南谷洋 副会長 酒匂光 副会長 梅橋豊 副会長 丸野真 副会長 芝原正 副会長 泊田直 副会長 和山政 副会長 松山輝 副会長 加治佐 副会長 東田洋 副会長 窪マリ 副会長 野添悦 副会長 溝口逸 副会長 田中俊 副会長 黒松武 副会長 寺師慶 副会長 上野寿 副会長 中西尾良 副会長 中馬浩 副会長 松久保正 副会長 市坪政 副会長 中見昭 副会長 吉山栄 副会長 森戸安
福 同 窓 会	会長 長森田剛 副会長 東村書宏 副会長 中田祐三 副会長 蘭川政嗣 副会長 松久保子 副会長 高田毅 副会長 新原正 副会長 鮫田政 副会長 東島雄 副会長 久松成規 副会長 木田功 副会長 宇都充 副会長 上園一 副会長 上妻ゆき 副会長 上野彦 副会長 大倉野三 副会長 梅橋省 副会長 宮原楊 副会長 野中行 副会長 土野光 副会長 前政 副会長 内和 副会長 森山昭 副会長 菊永稔 副会長 内村哲 副会長 中寛
熊 同 窓 会	会長 飯野布志夫 副会長 二反田統男 副会長 日置宏 副会長 神野幹彦 副会長 岩屋口大造 副会長 梅津弘芳 副会長 河津由美子 副会長 大早夫
宮 同 窓 会	会長 佐多竹良 副会長 堀内勉 副会長 上野修 副会長 南谷洋 副会長 酒匂光 副会長 梅橋豊 副会長 丸野真 副会長 芝原正 副会長 泊田直 副会長 和山政 副会長 松山輝 副会長 加治佐 副会長 東田洋 副会長 窪マリ 副会長 野添悦 副会長 溝口逸 副会長 田中俊 副会長 黒松武 副会長 寺師慶 副会長 上野寿 副会長 中西尾良 副会長 中馬浩 副会長 松久保正 副会長 市坪政 副会長 中見昭 副会長 吉山栄 副会長 森戸安
鹿 同 窓 会	会長 長森田剛 副会長 東村書宏 副会長 中田祐三 副会長 蘭川政嗣 副会長 松久保子 副会長 高田毅 副会長 新原正 副会長 鮫田政 副会長 東島雄 副会長 久松成規 副会長 木田功 副会長 宇都充 副会長 上園一 副会長 上妻ゆき 副会長 上野彦 副会長 大倉野三 副会長 梅橋省 副会長 宮原楊 副会長 野中行 副会長 土野光 副会長 前政 副会長 内和 副会長 森山昭 副会長 菊永稔 副会長 内村哲 副会長 中寛
南さつま地区同窓会	会長 飯野布志夫 副会長 二反田統男 副会長 日置宏 副会長 神野幹彦 副会長 岩屋口大造 副会長 梅津弘芳 副会長 河津由美子 副会長 大早夫
知 同 窓 会	会長 佐多竹良 副会長 堀内勉 副会長 上野修 副会長 南谷洋 副会長 酒匂光 副会長 梅橋豊 副会長 丸野真 副会長 芝原正 副会長 泊田直 副会長 和山政 副会長 松山輝 副会長 加治佐 副会長 東田洋 副会長 窪マリ 副会長 野添悦 副会長 溝口逸 副会長 田中俊 副会長 黒松武 副会長 寺師慶 副会長 上野寿 副会長 中西尾良 副会長 中馬浩 副会長 松久保正 副会長 市坪政 副会長 中見昭 副会長 吉山栄 副会長 森戸安
枕崎・坊津地区同窓会	会長 飯野布志夫 副会長 二反田統男 副会長 日置宏 副会長 神野幹彦 副会長 岩屋口大造 副会長 梅津弘芳 副会長 河津由美子 副会長 大早夫